

博物館だより

No.221

令和7年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー
2025年4月

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

休館日 ※情報はR7.3.19現在



みやこ町歴史民俗博物館「昭和100年記念講演会」 元号「昭和」を考案した

吉田増蔵の生涯と功績

今年（令和7年）は「昭和100年」の節目の年にあたります。この元号「昭和」を考案した人物は、みやこ町出身の吉田増蔵です。当館では「昭和の日」に向け「昭和100年記念講演会」を下記の内容で開催します。この講演会では、吉田増蔵の生涯を振り返りながら「昭和」の元号及び「平成」に在位した天皇陛下（現在の上皇陛下）の称号・名前が考案された経緯や時代背景などを当館学芸員が分かりやすく解説します。また展示室の先人顕彰エリアに吉田増蔵ゆかりの資料を展示し、ロビーには彼を題材にしたマンガのストーリーに沿ったパネル展示を行います。インターネットやマスコミ等で「昭和」が注目を集める中、この元号を考案した町出身の先人について詳しく知る絶好の機会ですので、お誘い合せの上是非ご参加ください。



▲ 吉田増蔵 (1866～1941)



▲ 元号「昭和」と平成即位天皇陛下の称号・名前の決定シーン

1. 開催日
令和7年4月26日（土）
10:00～11:30
2. 場所
みやこ町歴史民俗博物館
3. 講師
当館学芸員 井上信隆
4. 参加人数及び応募方法
先着60名のみ参加可
参加希望者は電話による事前連絡が必要
5. 参加費
200円（資料代）

◆講座・教室・催し物ガイド 4月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

4月5日（土） 9時30分～

【古文書講座】

4月12日（土） 10時～

【古典かな講座】

4月19日（土） 9時30分～

【みやこ学講座】 ※記念講演会を兼ねる

4月26日（土） 10時～

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途ご案内します。

博物館で「楽習」始めませんか？

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか？詳しくは博物館へお問合せ下さい！

★博物館友の会

バスハイイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅やイベントに参加できます。

★文化遺産ボランティア（豊み隊）養成講座

町の宝を三つのアクション①ガイド（案内）②ガード（管理）③ワーク（調査＆学び支援）でサポートするスタッフを募集・養成する講座です。

★博物館歴史講座

館や町内外の文化遺産を題材に、町の歴史と文化を学びます。題材別に4教室があり、掛け持ちやお試し受講も可。1回当り200円の資料代が必要です。
・漢詩紀行講座（宮原加代子先生）
・古典かな講座（同右）
・古文書講座（川本英紀先生）
・みやこ学講座（当館学芸員）

2・3月の業務日誌から

2月1日（土）、観光まちづくり協会さんが制作したみやこ町PRグッズ「漱石の似顔絵キーホルダー」の販売が始まりました。猫耳姿の漱石自画像は当館だけの激レア資料。このグッズで町の知名度がUPするとよいですね！

3月2日（日）、春の全国火災予防運動にちなみ永沼家住宅で文化財防火点検式が行われました。当日は行政と関係者（所有者・保存協力会員・ボランティア・地元消防団員）が一堂に会し、文化財の防火体制を確認しました。



▲ 備え付けの防火設備を試験操作し有事の対応を確認しました



▲ 販売挨拶に見えた水上局長。グッズは当館でも取扱っています

「吉田増蔵と」昭和100年」

今年も町内の各学校で新入生を見かけるようになりましたが、来年4月からいよいよ「令和世代」が小学校へ入学することになります。6年前の4月1日、新元号「令和」が発表され、特に墨で書かれた「令和」の額が掲げられた場面は、国内外で注目を集めました。今回は「平成」の改元からはじまった元号発表方法の採択要因に、この町の人物が深く関わっていたことをご紹介いたします。

今年は「昭和100年」にあたる節目の年ですが、この元号「昭和」を考案した人物は、みやこ町出身の「吉田増蔵」です。吉田増蔵は慶応2年（1866）1月22日に現在のみやこ町勝山上田に生まれ、8歳の時に勝山神社境内に佐藤中が開いた勝山地域で初となる小学校に入学します。（この小学校は現在の黒田小学校の前身にあたります。）明治12年（1879）



みやこ町先人マンガ『吉田兄弟物語』

2月9日、行橋市上稗田の漢詩人、村上仏山が開いた私塾「水哉園」に入門し、ここで漢学の素養を身に着けます。明治16年（1883）に上京し、その6年後にはアメリカに渡りますが、改めて漢学の素晴らしさを知り明治43年（1910）から現在の奈良女子大学で教鞭を執ります。大正9年（1920）には宮内省図書寮の編修官となりますが、この役職に増蔵を推した人物は、夏目漱石とともに「明治の二大文豪」と称される森鷗外でした。

森鷗外は、小説家をはじめ陸軍

軍医や国立博物館総長など、様々な役職に就いています。特に晩年は、宮内省の官僚として「元号の考案作業」に取り組みます。鵬外はかねてより「明治は中国、大正はベトナムで使用された元号」と訴え、「大正」に次ぐ元号として、国内外で使用例がない「完璧な元号」の考案作業を「生涯をかけた仕事」として取り組みます。彼は「大化」から「明治」まで約1300年の間に使用された240におよぶ元号の考証をまとめるため『元号考』の作成に着手します。これは元号考案の際、重複を避けるための重要な「データベース」となるものですが中国、朝鮮半島、ベトナムなどで使用された元号やその考証を膨大な量の書物から抽出する作業は想像を絶するものでした。森鵬外は、この作業遂行のためには、中国や日本の元号に精通する漢学者が不可欠として、その人材を探します。この条件を満たし、森鵬外が全幅の

信頼を寄せた人物が吉田増蔵です。鷗外は、増蔵とともに、この誰も成し遂げていない「完璧な元号の考案作業」に挑みますが、突然病に倒れます。軍医であった鷗外は、自らの病状を見極め『元号考』の編集作業を吉田増蔵に託します。さらに鷗外は、愛蔵していた貴重な中国の書籍などを「余が死したらば、之を吉田増蔵君に送るべし。吉田君の外、善く之を用ふるものなし」と遺言しており、漢学に精通する森鷗外から、その才能の高さを認められ、いかに信頼されていたのかを物語るエピソードとして伝えられています。

その後、増蔵は鷗外が望んだ

『元号考』を完成させ、新元号の草案作成に着手します。大正15年（1926）12月25日、大正天皇崩御により開かれた枢密院本会議で、新元号が「昭和」に決定します。

「昭和」は中国最古の歴史書『書経』にある「百姓昭明 共和萬邦」を典拠に考案された元号ですが、この当時「昭」という字は一般的ではなく一部の人のみを知る特別な漢字でした。新聞報道が一般的であったこの当時、新聞記者は、新元号発表直後に自社へ新元号「昭和」の「昭」を「日へんに召す」など電話で伝えますが、その相手には伝わらず、また皇室関係の誤報道を避けるため自社へ戻って伝えた例もみられました。吉田増蔵が考案した元号「昭和」は、森鷗外が切望した国内外で使用例がみられない「完璧な元号」となり、また「昭」の字も一般に広く浸透してゆきました。それから63年後



新元号「昭和」を伝える場面 『吉田兄弟物語』より

の元号「平成」の発表は当初、口頭で伝えられる予定でしたが、直前に、元号「昭和」発表時に発生した出来事から、テレビの視聴者に元号の文字や読み方を瞬時に伝える発表方法が改めて検討された結果、墨で書かれた新元号を掲げながら読み上げる方法が提案され、急遽、辞令専門職員により墨で書かれた「平成」の文字が用意され、あの歴史に残る発表に至ったといわれています。

令和4年度、みやこ町教育委員会は、地域に貢献した人物や、その功績が周知されていない人物を対象にマンガ製作を行う、B&G財団の「ふるさとゆかりの偉人マンガの製作と活用事業」を活用して、吉田増蔵とその兄健作を対象とした先人マンガ「吉田兄弟物語」を作製しました。この翌年

『田兄弟物語』は、現在「みやこ町

電子図書館」で閲覧することができ
ます。森鷗外とともに挑み、吉
田増蔵が考案した「完璧な元号」
であり「世界最長の元号」となった
元号「昭和」がどのように考案され
たのかを詳しく知ることができます
ので「昭和100年」を機会に是非
ご覧ください。

（井上信隆）

（井上信隆）